○2 番（石井亨君）
　2 番石井亨です。
　質問をさせていただきたいと思いますが、今日午前中にですね、岡本議員の質問の中で、総務課長の方から急患搬送の数値が出されました。で、別に答えがいる話では全然ないんです。通告もしてませんし、答弁がいる話ではないんですが、ちょっとこの数字の見方で、感想だけ一言まず説明をしたいと思うんですが、記憶の範囲なんですが、小豆消防東西ですね、4 車両高規格車があって、年間大体 1300 件前後の出場数で、ほとんどの場合キャンセルはなくって、大部分が出場したら、そのまま病院へ運ぶというこういう状態なんだろうなと思うんですね。
　救急車っていうのは、患者を医療機関まで運ぶ役割ですから、症状が軽くても念のために行きますか、で、大体が運んでしまうというこういう状態になるんだろうなと。で、その中で豊島の数字が出まして、2022 年 2023 年 2024 年と数字が出てきたんですが、ご存じのとおり、2022 年には土庄町がこれ、瀬戸芸の前回の瀬戸芸ですから、土庄町のほうで救急隊 OB を置いていただいて、対応してきた。2023 年からは、消防署から月曜～金曜については、平日については日勤で出勤していただいて、こういう形で対応している。これは結果として搬送に至った数っていうのは、これぐらいだろうなあと思うんですけれども、さっきの熱中症の話ですれば、調子が悪いってこういう状態になると、しんどいから病院へ行ってみようかと言っても病院がないので、連絡するとするとここに連絡が行く。そうすると、出場するんですけれども、しばらく休んで様子をみますかとか、それからそうですね、定期便で動けますか、というこういう状態の中で、結果として救急搬送に至らなかったけれども、
○議長（濵野良一君）
　すみません、手短にお願いします。
○2 番（石井亨君）
　出場して対応したというのは、かなりの数になるんじゃないかなとその辺のところをですね少しねえ、こう見極められたらなというふうに印象を思いました。
　で、併せて報告をさせていただきますが、昨年度のに 3 月じゃなくて 2 月 25 日にですね、豊島自治連合会の方から消防署に対して、消防署主導で急患搬送の、
○議長（濵野良一君）
　通告外になりますので。
○2 番（石井亨君）
　これなりません。報告しています。質問の前段として。

○議長（濵野良一君）
　観光が住民の QOL に関連することでよろしいですか。
○2 番（石井亨君）
　はい。これは質問の内容とか全前段の部分ですが、打ち合わせの会を持てることができて、問題はお互いの問題認識を共有できたので、春会期については非常にスムーズに搬送ができてですね、うまくすみ分けができたなあと。その上でですね、質問の QOL の方に入りたいと思うんですが、今のお礼と報告をするつもりでしたので、はい、ありがとうございます。
　その上で質問ですけど、交通事故がですね、非常に多いというのを聞いているんですが、まず大前提として、先ほどもこれ質問の中にありましたが、春会期中の小豆島豊島の入場者数ということについて、どのように把握しているかということをお伺いしたかったんですが、午前中のやりとりの中で、質問の中でこれ数字が出てきました。これは実行委員会発表の数字だったと思うんですけど、美術館の入館数とか他の形での把握というのは、現状されているのかどうかということをまずお伺いしたいと思います。
○議長（濵野良一君）
　商工観光課長　蓮池幹生君。
○商工観光課長（蓮池幹生君）
　石井議員の質問にお答えいたします。
　先ほど議員おっしゃっられたとおりですね、あくまで町とすれば、公式に発表された瀬戸芸からですね、実行委員会からのものが公式発表となりますので、先ほどの数字に相違はございません。
　その他ですね、民間事業者の数につきましては、なかなかこれ把握が難しいところがありまして、仮に手に入れたとしてもですね、なかなかその扱いには難しいということがありますので、今現在ですね、手持ちにはございません。
○議長（濵野良一君）
　2 番　石井亨君。
○2 番（石井亨君）
　実行委員会発表数字によるとですね、対前回比で、豊島の場合は 183％ぐらいの増加と。で、小豆島の方については 147％ぐらいの増加というこういうことになります。
　その中でですね、今年春会期は交通事故、特に自転車事故なんですが、これが非常に多いということで伺っております。ちょうど 5 月 18 日に地区別の豊島の地区の運動会ありまして、町長さんもご臨席いただいていましたが、そのプログラムの中で、新人の人は自己紹介をしてくださいという駐在さんの自己紹介を運動会の中でするという場面があるんですけど、そこでですね、ちょう

ど5月18日ですから、会期開始1カ月目なんですが、前年と前年1年間とほぼ同数の事故が発生しています。約1カ月で、というこういうコメントがありました。

それから、交通安全協会の方でですね、1月から5月あたりですが、土庄町内の自転車事故の半数は豊島で起きていると、いうこういう警察側からのアナウンスがありまして、警察もですねかなり事故の未然防止、あるいは対策ですけれども、そういうことで余力をかなり豊島へ投入していますという話も聞いていますけど。実際どれぐらいその事故があったかということについては、どういう把握状態になってますでしょうか。

○議長（濵野良一君）

商工観光課長　蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

では、石井議員のご質問にお答えいたします。

春会期中の小豆島また豊島における交通事故件数ですが、小豆島におきましては、春会期中95件というふうにお聞きしておりまして、そのうち自転車事故が5件ということです。また豊島におきましては、交通事故数件数が12件で、うち自転車事故が8件というふうにお伺いしております。以上です。

○議長（濵野良一君）

石井亨君。

○2番（石井亨君）

商工観光課長の方でも、警察からいろいろ聞いていただいたりとか、もちろん実行委員会というか町というかに発表された警察の数字もあると思うんですが、会期中の数はそれでわかりますという状態がまずあって、そうすると例えば1カ月で前年並みということになると、去年は1年間にいくつぐらい事故あったんでしょうかっていうと、それが出せる数字なのかどうなのかちょっと検討させてくださいっていう状態があってですね。開催している年、そうじゃない年、どれぐらい違うんだろうかなと。

それから、春会期、夏会期、秋会期とありますけど、会期中と会期との間、これ有意な変化が出るのかなあ。それって、やはり、おおよそでいいのでどれぐらいの人が来ていて、どれぐらいの事故があるのかなあと把握したいというふうに思うんですが、なかなかそれがすぐに把握されたり、共有されるような状態にはなってないのかなというふうに思いまして、先の入場者数の話も伺ったわけですけど。これまで、3月議会も含めまして何回か直接もお話をさせていただきました。

1つここで確認をしたいのは、実行委員会サイドからは、複数の拠点基準点の合算ですよという前提はあるにしろ、一応、実行委員会主催者発表として、

春会期の数字出るじゃないですか。これって、じゃあ、夏会期までの間のブランク部分はこんだけですよっていう、これは統計とられたりとか出されたりするもんなんでしょうか。
○議長（濵野良一君）
　商工観光課長　蓮池幹生君。
○商工観光課長（蓮池幹生君）
　ご質問にお答えいたします。
　申し訳ありません。そういった数というのは把握していなくてですね、実行委員会からの発表もございません。
○議長（濵野良一君）
　石井亨君。
○2番（石井亨君）
　そうですね。なかなかですね、数字がつかみにくいというのと、特に変化がつかみにくいという状態があってですね。実行委員会がやってる調べ方っていうのは、もし施設の方で協力は得られるならば、そんなに難しいカウントの方法じゃないと思うんです。おんなじ基準で数字を取ったら、これぐらい違いますよ、違いませんよってのが見えると、いろいろ対策を考える上でありがたいかなあと。それから本来ならやはり、その小豆島がずっと長年、船の乗船者数、掛ける一定の係数で長年統計を取ってきている。そうすると、年によっての違いとか季節によっての違いというのは、どの程度誤差があるかともかく同じ基準で計算しますから、そうすると変化の様子はよくわかるんだろうなと。その辺のことをいろんな対応考えていく上で、必要になってくるんじゃないかな、そう思っていましてですね。
　まず、1点目については、その人が来ることによって航路が維持されるという、こういう恩恵があるという部分もあるわけですから、1つは航路会社にお願いして、変化をつかまえるという意味で、対策を考えるという意味で、数字を出していただけないのかなというお願いができないのかなあということが1つ。
　もう1つは、もう1つのやり方としては、主催者側とおんなじやり方で統計をとっていくということができないかなあ。ここの考え方について、何らか必要じゃないかと思うんですけど、ご意見をいただけたらと思います。
○議長（濵野良一君）
　蓮池課長。
○商工観光課長（蓮池幹生君）
　では、石井議員のご質問にお答えいたします。
　まず1点目ですね、小豆島のようにですね、乗降客数によって把握できない

かということになりますが、あの数字自体もですね、観光客を把握するにあたってあくまで推計とはなるんですけれども、例えば豊島ですと、2つの会社さんといいますか、あります中でですね、片方は補助航路でありますので、そういったところはある程度把握できるじゃないかというふうに思っていますが、もう一方の方はですね、どうしても民間事業者ってこともありますので、そういったところを協力していただけるんでしたら、ぜひ協力をいただきたいと思っておりますが、現時点ではですね、なかなかそこまでの、回答といいますか、数字までの報告義務もありませんので、われわれは把握しないという状況ではあります。

それから、もう1つですね、瀬戸芸実行委員会の来場者数の方法というのは、石井さんのおっしゃるとおりなんですけれども、やはり豊島美術館は別としましてですね、他の施設というのは、どうしても会期以外は閉まってるところもありますので、一概にそれを把握することは難しいかと思いますが、根幹となる美術館ですよね、あそこの数字につきましては、もしお教えできるんでしたらですね、そこが1つの参考になろうかと思いますので、今ちょっとデータは持っていないんですけども、教えてもらってないんですけれども、そういったところがもし可能なんでしたら、ある程度の数というのはつかめるのかなとは思ってますので、その辺り、われわれとしましても協議してまいりたいというふうに思っております。

○議長（濵野良一君）

石井亨君。

○2番（石井亨君）

その変化の様子がつかめるという形で、どうやったら把握していけるのかということについては引き続き模索をしていただきたいというふうに思います。

私の方で調べた事故の件数で言うと、具体的にはこんな感じだったんですよね。重複する数字も結構ありますが、特に自転車事故だけに集約して言えばですね、8件おっしゃられたとおり8件、会期中に豊島で事故が起こっていますという状態で、前年、令和6年に何件あったかというと自転車事故は1年間で9件でしたと。そこのところが、1カ月で前年並みという話になった根拠の数字かなというふうに思います。

それでですね、今度救急隊の方の対応ですね、出場件数の方になります。もちろんこれ全部運んでるというわけでは全然なく、現場へ行って、対応しましたという出場件数ですが、自転車事故で言えばですね、土庄町内でさっきおっしゃられたとおり、13件中8件が豊島でした。これは期間は4月18日から5月31日です。これを観光客に限定すると、土庄町内で自転車事故11件中8件が豊島で発生しましたというこういうことになっている。

これを救急隊側の、データで見ていくとですね。対応件数14件、そのうち3名が島民の方です。自転車事故8件。そのうち観光客8件、そのうち外国人観光客が8件ということで全員外国人の方なんですね。内訳で見ると台湾の方が3名、中国の方が3名、フランスの方が1名、カザフスタンの方1名と。それと消防署側からも警察側からも、これはあくまで認知件数で、後から聞いた話で認知できてない件数がそれなりにあるということは、聞かせていただきまして、当時ですね、それこそ小豆警察も増員してくれたということがあって、連日すごいパトカーがこう走り回ってるんですね。僕も島の中にいて1日3回も4回も会う、しょっちゅうスマホ使ってたりすると呼び止めて注意指導しているってこういう状態があって、この数字ぐらいが今のところ出てるということで、これは何らかの対策を今後考えていかないといけないんじゃないかなというふうに思います。

で、ですね、その前提になるのが、やっぱり母数の変化をどうやってとらえるかなあということになるんだろうと思うんですね。その上でですね、これはこれだな。今、たちまち答えをくださいという話ではないんですが、私の方へいろいろ問い合わせてくるなり、どうしようかというこういう話が出る。

生活とちょっとこう関わってくるような部分の話としてはですね、例えばですが、3月でも指摘をさせていただきましたけど交流センターの浄化槽から生が海に出て臭うという話がちょっと出たりするんですね。40人槽なので1日多いときには2千人が通過するという状態になるとなかなか厳しいという状態があって、これに対しては対策として、仮設トイレを置いていただいてるんですけど、やっぱり人の動き見てると、クーラーの効いた中で、時間がかかってもずっと待ってるという状態でほとんど仮設トイレは利用していただけないなあというふうに思いますが、これは夏になるとさらに暑くなるので、もっとこの現象は顕著になるんじゃないかというふうに思います。

それとかですね、ゴミがそれなりにやはり多いんですね。家浦港と唐櫃港にだけごみ箱を置いてそれ以外のところ、原則ごみはお持ち帰りくださいという形でやっているというこういう状態になってます。が、会期中やはり見ているとですね、会計年度任用職員が休みの日にごみの片付けに来てるんですよね。それで、これはちゃんと出勤扱いで共有してますかって言ったら、いやボランティアですっていうこういう話があって、それはすごくありがたいんですけれども、それをしてしまうと、実際問題が発生していないということになってしまうので、それはちゃんと担当課と共有してくださいね、という話をして、その上でいろいろ聞いてると、倉庫にごみを分けて置いておいて、それを収集日に集落の中の各収集場所へ分散させて入れていきますと、1カ所で入りきらないのでっていうこういう状態がありましたが、量がそこに入っていくとよく見

えないんですけど、実は5月の連休明けのときにはですね、いたるところを収集ボックスが満杯になっててパッカー車に入りきらなくて、収集しきれないってこういう状態があって、観光客から出たごみというのが、それが集落の収集の中に入ってきて、絶対量が多すぎて運べないみたいな現象が起こってるなあ。この辺もちょっと実態を把握していかないといけないのかなあと。現場にいるのは私らの方ですから、できるだけ現場がどうなってるか見ていきたいと思いますけれども。こういう問題があるんですね。

それから、6月10日の日にですね、春が終わったという段階でということで実行委員会の方から、時間を取ってくださいまして、問題の共有と、対策の検討という意味ですけれども、かねてから申し上げてた、豊島の事業所に通勤されている方の通勤に支障がないような工夫ができないでしょうかっていう問題提起です。答えはまだ全然出てないわけですけれども、問題として出るのは、観光客の方が大勢動く中で、豊島の事業所へ通勤する際に支障が出る方がありうるということで、現に春会期に私の方の把握では、2件、出勤できませんでしたっていうこういう状態が出たわけですけれども、生活者優先というこういう考え方ではやってはいるんですけれども、なかなか島の生活者の方にすべてに共有されるという状態にはなってなくって、それから通勤されている方も、それぞれ認識が違っていて、23名の方が、豊島の農協なり、2つの福祉施設、あるいは、町の公民館主事もそうですけれども、それから消防署から通っていらっしゃいます。それ以外に例えば週に1度定期で、NPO職員が豊島に通ってるとかってあるんですけれども、やはり聞いてみると、なかなか船に乗り込むのに非常に困っているというこういう話が出ます。

この辺も整理をしていかなくちゃいけない課題ですし、あるいは島の中でですね、たくさん増便していただいてるバスがたくさん走ってるんですね、走っている。社協の豊島分会ではですね、移動困難者の方で必要な方には無料でチケットを渡してるんですよ。無料で乗れるチケットを渡してるんですが、このチケットは増便分のバスには使えないので、旧来の例えば私の甲生地区ですと、1日4便だったのが12便今走ってます。でも12便中乗れるのは4便だけなんですね。この4便に乗ってくださいということでお願いするんですがなかなかお年寄りの方には、どれが乗れるバスなのか、乗れないバスなのかっていうのが、区別がつきにくくて、以前は赤いバスに乗ってください、赤は乗れますって話をしてたんですが、会期初め頃は、その赤いバスがよく故障して、代車になるので、やっぱ見分けがつかないっていうこんなことがあったりしてですね。一つずつ整理をしながら、少しずつできるところから対策をやらないなというといけないなと思うんですが。

そこで質問の趣旨としてはですね、前回実行委員会から通勤者の問題につい

ては私はいろいろ聞かれたんです。で、お話し合いをしました。いろんな方からいろんな話を聞いているのだと思います。誰から話を聞いているのか、よく把握してないんですけどこちらとしては。どういう問題が起こっているかなあ、対策を立てないといけないことがあるのかなあというのは、これって、どこが全体像を把握しているんかなというのが私の疑問なんです。私が問題提起したものについては話し合っていただけてるんですけれども、それは行政の中で言えば、ごみに支障がないかどうかっていうのは住民環境課の方の課題ですけど、そこで何か出てたらそれは商工観光課へ連絡されて集約されるんかなあと。そういうふうにですね、町の中ではどこが、これを窓口というのか、受け付けているところなのか。それから、実行委員会の所管になるのか町の所管になるのかってのが、1つずつすごく区別がつきにくいので、どういうふうにその意見を集めてきて、ある程度の範囲で共有は必要なのかなと思うんですけどその上で、誰が対策をするかってまた持ち分かれるっていう仕組みが要るんだろうと思うんです。

今まであんまり機能するような形になってなかったんじゃないかなと思うんですが、現状これ、どういうふうなプロセスをたどることになっているんでしょうか。決まってないのか全然決まってないのかもしれませんが、実情を教えていただけたらと思うんです。

○議長（濵野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

では、ご質問にお答えいたします。

まず、この瀬戸芸っていうのは、もちろん主催者であります瀬戸芸実行委員会がありますので、基本的にはそこに集約されると思っているんですが、どうしても瀬戸芸外のものも出てくるかと思います。

そういった中ではもう随時随時、その都度都度ですね、そういった問題であったり、案件によって、それぞれがタクト振るのは誰なのかというところはちょっと変わってると思います。

例えばさっきのごみの話ですけれども、当然観光客によってごみが増えている、いっぱいなってるよ、そういうところは当然、環境課の方ともご相談といいますか協議、共有しますし、そういった案件案件によって、情報の共有というのはやってるつもりではあります。

いう中でですね、例えば先ほど石井議員の話もありましたが、救急搬送体制の構築の話がありました。それってこれまでなかったんですけれども、前回からですね、何とかしないかんということで、自治会の皆さんであったり、あるいは消防団もそうです。消防本部もそうですし、警察、それから関係者の方々

も寄ってですね、何回も膝つめて話をしました。石井さんも入ってもらったと思うんですけども、そういった中でですね、こういった、救急搬送体制が構築できたということが1つの成果であり、そしてそれが、今年度ですか、常備消防の24時間ではありませんけれども、設置にもつながっていたとこありますので、そういった協議の意味かもわかりませんけれども、小さいサイクルの中で、PDCAサイクルというのは回ってると思ってるんです。なのでそういった案件案件ごとに、解決していく方が、機動力も発揮できますし、実際に解決していった案件もありますので、そういったところですね、情報共有できるところはしっかりとしていく。もちろん、もうその通りなんだけども、そういったところを踏まえてですね、案件案件ごとに今、把握はしている。そういったところで、今、PDCAサイクルというものを回してるというような状況であります。

○議長（濵野良一君）

2番　石井亨君。

○2番（石井亨君）

ありがとうございます。実情だろうと思うんですね。今、たちまちに答えがないというのは、おっしゃるとおりなんだろうと思います。

改めて冒頭に戻ればですね、消防署主導で話し合いが持たれて、何回か重ねる中で、情報共有ができて、春会期については非常にスムーズなすみ分けができたかなあと。結果として、消防団の豊島分団の出場数はゼロという形で、春会期を通過することができた。そういう意味では、こういう共有という作業をやりながら調整していくことで、やれていけるんじゃないかなという印象は現在持っています。そういう意味でですね、一つずつ問題、ここに問題があるんじゃないかっていうことを持ち寄って、どう知恵を出し合うかっていう枠組みが必要だと思いますので、今日は、おっしゃられたとおりですけれども、一つずつ解決のPDCAを回していく枠組みを、これから作っていきましょうとその必要性はいろんな分野でありそうですよねということで、これを共有したという形で今日は質問終わらしていただきたいと思います。ありがとうございました。